



## 基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「第4回琉球映画祭 みんなの上映会」

北島和俊

平成27年10月10日に「沖縄県子ども心の診療ネットワーク事業」の一環として第4回琉球映画祭が開催されました。今年の映画祭では『みんなの学校』を上映しました。この映画は、大阪市住吉区にある大阪市立大空小学校の一年間を追ったドキュメンタリー映画です。大空小学校は「すべての子どもの学習権を保障する」という理念のもと、特別支援教育の対象となる発達障がいがある子ども、自分の気持ちをうまくコントロールできない子ども「みんな」同じ教室で学びます。この奇跡のような(公立小学校のあるべき姿)小学校に校則はなく「自分がされていやなことは、人にしない、言わない」という「たったひとつの約束」があります。この約束を守れなかった子どもは「やり直し」のためにやり直し部屋である校長室へとやってきて「やり直し」一つずつ成長していきます。このような取り組みは校長先生・学校職員だけでは成り立たず、保護者・地域の人々、そして大空小学校の子どもたち「みんな」で作り上げています。映画の中で子どもたちは泣き・笑い・怒り・悲しみなど表情豊かに生き生きと学んでいて、観ている私たちも気づいたらスクリーンの中に引きこまれ「泣き・笑い・怒り・悲しみ・やり直し部屋に行く」を経験し大空小学校の子どもたちと一緒に学んでいました。

『みんなの学校』上映後は開校から9年間校長先生として沢山の子どもたちと「やり直し」をしてきた木村泰子先生に講演していただきました。木村先生は関西人ならではの軽妙な語り口で、その場にいた「みんな」を虜にし、会場が大空小学校になったかのような雰囲気になりました。講演について書くこととスペースが足りなくなってしまうので、代わりに木村先生から『みんなの学校』を観に来てくださった沖縄の方々へのメッセージを掲載いたします。

沖縄のみなさま「限りなく広がる大空のように広い心の人になりたい」大空小学校の校名はこんな願いを込め、子どもたちが考えて決めました。みんな(子ども、保護者、地域の人、教職員)が自分でつくっている学校です。だから、みんなが『みんなの学校』をとても大事にします。さまざまな特性や個性の子どもたちや大人たちが、いつも一緒に学びあっています。いつもみんなが自分のとなりの人を大切にしようと思っています。学びは楽しいです。沖縄にもどんどん『みんなの学校』をつくりましょう。自分がほんの少し変わるだけで、いつでもどこでも『みんなの学校』はつくれますよ。

最後になりますが琉球病院は「子どもの心の診療」をしている県内でも数少ない病院です。病院には様々な悩みをもった子どもたちが通院しています。その中には様々な理由で病院には来られるけど、学校に行きたいのに学校には行けない子どもたちが沢山います。「病院は子どもたちのために何ができるか」と常に悩みながら試行錯誤の日々を過ごしています。そのような中、『みんなの学校』に出会い、気づかされたことがありました。病院だからといって自分たちだけで抱え込み頑張ろうとするのではなく、みんな(子ども、保護者、地域の人、教職員、そして病院スタッフ)で子どもたちのことを考え学んでいければいいのだと。琉球映画祭で『みんなの学校』を上映し、映画に出会った「みんな」がほんの少し変わることが沖縄の学校教育・子どもの心の診療がより良くなる「きっかけ」になればと強く願っています。

第4回琉球映画祭に携わってくださったすべての「みんな」ありがとうございます。

第5回琉球映画祭も期待してお待ちください。



## 院長

福治康秀(ふくじ やすひで)  
1964年生まれ、那覇市出身、  
首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、  
琉球大学医学部精神神経科入局。  
95年那覇市立病院精神科、96年  
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、  
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。  
日本病院・地域精神医学会理事。



## 診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

## 病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
- ユニット 4床
- ・重症心身
- 障がい 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス

●アクセス  
路線バス/那覇BS(下)または名護BS(上)より沖縄バス  
[77番名護東線]浜田バス停下車徒歩3分  
自動車/那覇市から40分  
沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

## トピックス

### 行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き  
進捗状況 本体工事：請負業者 電気設備 (株)九電工  
機械設備 (株)三建設備工業  
建築(第2期)工事 (株)浅沼組  
新病棟(第1期工事)完成 平成27年7月

### 教育・研修

- 包括的暴力防止プログラム(CVPPP)院外トレーナー養成コース  
日時：平成27年11月9日(月)～11月12日(木)4日間  
場所：管理棟会議室・北棟1階ジム室 対象：院外医療施設職員

## 地域医療連携室だより

受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として、地域医療連携室を設置しております。一般精神、認知症、アルコール依存症(アディクション全般)、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、修正型電気けいれん療法(m-ECT)等また、各種社会保障や就労等生活全般に就いております。児童精神においては、沖縄県より「子どもの心の診療ネットワーク事業」を受け県内の拠点病院として位置づけられており、児童についても、ますます診療機能の強化が図られます。



空床状況  
10月28日現在

|              |           |              |                 |
|--------------|-----------|--------------|-----------------|
| 精神科病棟<br>10床 | 認知症<br>5床 | アルコール<br>10床 | 児童思春期ユニット<br>2床 |
|--------------|-----------|--------------|-----------------|

※入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

## お問い合わせ時間

8:30～17:15 (土・日・祝日以外)  
TEL: 098-968-2133 (代)  
内線: 231・234  
FAX: 098-968-7370  
地域医療連携室直通

## 治療抵抗性精神疾患への医療



### クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目のクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例は149例になりました。平成27年9月のCLZ導入は1例でした。これまでにCLZ治療前に暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離をしていた患者様も多くいましたが、CLZ継続例では問題行動もなくなり、隔離は全て解除できています。重度の精神症状を持った患者様の病状がCLZ治療により改善しており、退院例も65例を超えています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

### m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っております。平成27年9月の治療実績は3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

## 認知症医療

今回は入院治療が終わった後の退院支援体制について述べます。

病院は病気を治療するところですから、治療が終わると退院することになります。認知症は進行性の治らない病気ですので、認知症の入院治療が終わるということは、物忘れが良くなるということではなく、昼夜逆転や興奮・攻撃性・介護抵抗といった行動心理症状（周辺症状）が落ち着くことを言います。行動心理症状が落ち着けば、自宅や施設で介護の手を借りながら暮らしていく事が出来ます。

自宅へ退院される場合、ホームヘルパーのサービスを使ったり、昼間はディサービス（送迎付き）で過ごしたりする方が多くいらっしゃいます。場合によってはショートスティを利用して数日間、施設で過ごして自宅へ戻られる方もいます。食事が心配の方には、お弁当を届ける配食サービスもあります。自宅で過ごす場合、本人やご家族に負担をかけないための様々な介護サービスがあります。また、どこにどんなサービスを頼んだらよいか、介護保険制度ではケアマネージャーが相談に乗るようになっています。担当のケアマネージャーを決めると、ケアマネージャーが介護保険の認定に応じ支払う費用を考慮しながら、最適と思われるプランを立ててくれます。

また、自宅へ退院出来ない場合は施設への退院ということになります。施設と一口で言っても、特別養護老人ホームから、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅など様々です。入所できる条件・費用も介護認定に応じて異なります。沖縄県は全国でも入所費用が安く首都圏の半額程度で施設へ入ることが出来ます。たとえば有料老人ホームが東京都で平均22万円が11万円程度で入所できます。しかし、ケアや立地条件が良く人気がある施設は、入所を申し込んでも、空きが出来るのを長く待つこととなります。入所できる施設を探すのも大変です。

当院では退院後の生活環境調整についても、退院後の生活環境を念頭に入れて治療を進めるだけでなく、ケアマネージャーとの連携や施設の紹介、役所への手続きの助言など安心して退院できるための支援を行っています。認知症の治療は、入院してきたときの症状を改善するだけでなく、退院してからも安心して暮らしていける社会関係の再構築と思っています。認知症になっても心豊かに、たくさんの笑顔に囲まれた生活を送れることを願っています。

## 重症心身障がい児医療

「誤学習（ごがくしゅう）」という言葉をご存知でしょうか？人間の行動手順が、学習の積み重ねによって構築されるという考え方に立つと、自分の要求を通すために不適切な行動を取ることで相手を困らせ、最終的に要求を通してしまふことを誤学習による行動と呼びます。当病棟でも、利用者さんの行動が誤学習によるものではないかと思わせられる場面が多くあります。先日、利用者のAさんが着替えたばかりの衣服を、すぐに着替えたいと要求されました。上着のみが濡れていたため、私は上着のみを差し出しました。しかしAさんは納得出来ず、ズボンも替えて欲しいと要求されました。私は、「ズボンは汚れていないので、そのまま着て下さい」と伝えました。するとAさんは突然ズボンを脱ぎ、ズボンに放尿されました。そしてズボンを替えて欲しいと更に要求されました。結局上下の衣類を交換することとなりました。Aさんは要求を通すために「衣類を着替えて欲しい→衣類を汚す必要あり→尿をかければ汚れる」という考え方を取られたのだと思いますが、これは不適切な考え方だと思います。私は、始めから衣類上下を交換することを了承していれば良かったのかとも考えましたが、未だにスッキリした答えは出ていません。日々私自身も、悩ませられ、学習させられています。

## アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では9月現在、外来通院の患者様63名、入院中の患者様20名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

## 包括的地域精神医療（ACT）

訪問看護の利用者の殆んどは、入院からの導入が多いのですが、最近は外来通院している方から要望があり訪問看護に繋がることも増えました。訪問理由は、薬の管理方法や、就労をしたいがどのようにしたらよいか分からないので、一緒に考えて欲しい等があります。また、医師から、日常生活の困った相談について対応をして欲しい等さまざまな理由で訪問看護を始めていきます。訪問対象者の希望や要望に沿いながら、生活上の困りごとや、利用者の夢を応援しながら支援をしていきたいと考えています。

## 臨床研究部活動状況

「コンコーダンス・スキルを活用した集団プログラムの実践報告」 看護師 小橋川洋史

コンコーダンスとは「調和」「一致」を意味し、患者を尊重する医療者の基本的な姿勢を表明する概念で、コンコーダンス・スキルとは、そこに向かうための6つの介入と21のスキルから成り立っております。当院医療観察法病棟では服薬アドヒアランスの低い患者様を対象に、薬について考える集団プログラムを実施し、適宜スタッフがコンコーダンス・スキルを活用しながら患者の服薬に関する考えや服薬行動に対する変化の有無を調査しました。H23年11月～H25年1月までの期間に8クール実施し、延べ36名の方が参加されました。その結果、「服薬に関する考え方」に変化がみられたケースと「服薬行動」に対する考え方に変化がみられたケースがありました。一方、「薬を仕方なく飲んでいる」という考え方に変化がみられないケースもみられました。コンコーダンス・スキルを使用し集団プログラムで行う意義としては、副作用や怠業等の体験を共有することで患者同士も調和すること、これによって孤立感が軽減し安心につながる、薬に対する本音を語るようになること、などがあげられました。